

幸福度ナンバーワン県を支える、 福井放送の「小さな親切」運動。

全国で唯一、放送会社が
「小さな親切」県本部を務めている福井県。
放送会社ならではの強みを生かしながら、
ユニークな運動を展開しています。
福井県本部の取り組みをご紹介します。

両手でも足りない、幸福度ナンバーワン県の魅力。

福井県と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。越前ガニですか。それとも、東尋坊？高校野球ファンなら昨年のセンバツ優勝校、敦賀気比かもしれませんし、歴史好きの方なら朝倉氏や柴田勝家とお市の方を思い出すかもしれませんね。

でも、今回福井県を訪れてほかにいろいろ顔があることを知りました。例えば、法政大学が発表した「一番幸せな県 幸福度ランキング」では、福井県は第一位。由緒ある歴史に加えて、自然豊かな環境が決め手になっているそうです。

確かに名産品は数え切れませんが、古くから若狭湾で水揚げされた海産

気ぶり。インターネットで調べると、5万円をはるかに超える銘柄もあるほどです。

一方、企業には隠れたトップ企業もあります。自動車のカーシートなどを生産しているセーレン株式会社はカーシート用生地を生産では世界一のシェアですし、日本の眼鏡フレームの9割は鯖江市を始めたとする福井県で生産されています。このほか、土木、機械、化学、ソフトウェア、スポーツなどの分野で国内シェア1位という企業がたくさんあります。

また2000年にできた「福井県立恐竜博物館」は入館者数800万人に達しようとする、超人気スポットになっています。

そして、子どもたちの知力、体力テストでも常にトップクラス。文武両道の教育環境が整っているのです。

そんな福井県にあつて、「小さな親切」運動を推進されているのが、福井放送株式会社（以下福井放送）です。

同社の宮腰義博代表取締役社長は、「当社は「こころ豊かな福井の実現に貢献する」が経営理念です。放送は聞いて、見て、楽しんでいただく

歩というのが同社の見解です。

「どうも福井県の県民性として、目立つことを嫌うといいますが、ピリアルが苦手という面があるんですね。それを何とかしようというのが、数年からの県全体での取り組みなんです」と、同社の小藤幸男代表取締役会長は教えてくれました。

例えば、日本のお米の作付面積では「コシヒカリ」がダントツの1位ですが、実は福井県で誕生したお米なのです。「県民でさえ、新潟県発祥だと思っっていますからね」と苦笑い。同県も県民の流出防止が大きなテーマとなっています。毎年、5000人の若者が他県の大学に行



小藤幸男【こふじ・ゆきお】
福井放送株式会社代表取締役会長。1940年生まれ。1964年福井放送株式会社入社。1995年東京支社長、1999年常務取締役、2001年専務取締役、2009年代表取締役社長を歴任。2015年代表取締役会長に就任し、現在に至る。

ことが基本ですから、それらを通して心の面で県民のサポートをしたいと願っています」と意気込みを語ってくださいました。

平成24年には「かがやき基金」を設置し、福井県の将来のために各分野で活動し、目覚ましい活躍や実績をあげた団体や、個人の更なる発展を期待して応援する事業を始めました。

毎年、活動分野を決めて募集をしています。これまで環境、教育、スポーツ、音楽などが対象となり、昨年は演奏会に発展したいへん盛大な催しになっています。

また、家族や職場の仲間と参加

できる「FBCリレーマラソン」も開催しています。日本海を臨む芝政ワールドを舞台にたすきを渡していく競技は、自然を愛し、チームワークや助け合いの心を育むイベントとして、年々参加者が増えています。

「県民に信頼していただけなければ、ローカル放送局としての役割を果たせませんので、接点は意識して増やしています。また、子どもたちは地域の宝物ですから、健やかな成長を願って、これからもさまざまな形でサポートしていきたいと考えています。その一環として『小さな親切』運動についても力をいれています」と、宮腰義博代表取締役社長はおっしゃ

宮腰義博【みやごし・よしひろ】

福井放送株式会社代表取締役社長。1947年生まれ。1970年福井放送株式会社入社。1996年総務局総務部長、2002年総務局長、2007年常務取締役、2011年専務取締役を歴任。2015年代表取締役社長に就任し、現在に至る。





き、就職で戻ってくるのはその半数です。この数値を挙げ、他県からの流入増加を目指すことも大きなテーマ。そのために地元を代表する放送局として、県のピリアルルの面でも牽引していきたくと話してくださいました。

福井放送の社屋に入ると、エントランスのすぐ右側にラジオのオープンスタジオがあります。そのスタジオのすぐ近くには、小学生が描いた絵や作文が飾ってありました。実はこれ、同社が進めている「小中学校図画作文コンクール」の優秀作品なのです。このコンクールはすでに55年という歴史があります。

「県下の全ての小中学校にご協力いただき、毎年かなりの数の作品が寄せられています。今は作品をCDに収めて配布していますが、第一回で金賞を取った方は、もう還暦を優にこえているでしょう。歴史の重みを感じますね」と小藤幸男代表取締役会長は語っていました。

自己PR下手というお話でしたが、飾ってある作品を見る限り、とてもそうは思えません。福井放送の努力は確実に実っていると感じました。

支部を増やすより、既存の組織活用を。

「小さな親切」運動福井県本部としての活動も活発です。昨年度は、実行章を17人に贈呈しました。3の倍数月には各月1週間、福井県が主催する「クリーンアップふくい大作戦」とタイアップして「日本列島グリーン大作戦」を行います。

「作文コンクール」では、標語コンクールも実施して、毎年7000編もの応募があります。これは全国トップの数字です。入賞者は、年1回開催される「小さな親切」運動推進県民の集いで表彰されます。このほか、「あいさつ運動」「日本列島コスモス作戦」「車いす奇贈運動」など、運動本部が推進する全ての活動に参加されています。

福井県本部代表で、福井放送株式会社坪田清則取締役最高顧問は、「最初は支部を増やそうと思ったのですが、中心になってくれる人を探するのは難しいですね。それよりも既存の組織を活用した方が早いということに気づきました。まずは、市長や町長、教育長に運動を理解していただき、浸透化していくのが良い

のではないのでしょうか」と、現在の取り組みを話されました。

さらに、「あいさつ運動」推進協力校を増やすため、学校への訪問も積極的に行っています。まさにリーダーシップの塊といった感じの坪田最高顧問ですが、忘れられない思い出があります。それは福井市内の和田小学校を訪問したときのことでした。

「児童の二人が私を見て『どちらに借用ですか』と聞くのです。『〇〇へ』と答えますと、児童は『では、こちらが近道です』と言って、スリッパを出してくれました。帰りに玄関に戻ると、今度は別の生徒が『スリッパは私が片付けます』と言ってくれたそうです。

「思わず感動して涙が出ました。そしてこの運動は確実に効果があるな、続けなくてはならないなと思いました。今も、その時の気持ちで活動をしています。メディアを活用し、既存の組織を活用し、多く



坪田清則 [つばた・きよのり]
福井放送株式会社取締役最高顧問。1932年生まれ。1952年福井放送株式会社入社。2003年代表取締役社長、2009年代表取締役会長、2013年取締役最高顧問に就任し、現在に至る。福井県本部代表には2008年就任。なお、(財法)福井県文化振興事業団理事をはじめ福井県ソフトボール協会副会長など多数の公職を務める。

ビンゴゲームに、キャッチフレーズの設定などなど。アイデア満載の「あいさつ運動」の効果。

眼鏡フレームの製造で有名な福井県鯖江市。

その一角にある鳥羽小学校は、

福井県本部の平成27年度あいさつ運動推進協力校で、

さまざまな施策を設けて活発な活動を続けています。

今日はあめげじできた？

朝、担当の先生と児童会の生徒が校門に並び、集団登校をして子どもたちを出迎えます。「おはようございます」。取材日は花粉の多い頃で、マスクをする子がほとんどでしたが、マスクを通してなおかわいい声が響きます。特に、担当の児童は思い思いのメッセージを書いた画用紙を持っています。

「自分からおはようございます」「あいさつは心をこめて元気よく」など、児童が自分で考えた思いが書かれています。

「メッセージを作る過程で運動への意欲がわきますからね」。鳥羽小学校の水間貴子校長は、そう話してく

れました。同小学校の学校教育目標は「社会の一員としての資質を育てる」ですが、あいさつはその大切な第一歩ととらえているのです。そのため、実にさまざまな施策で「あいさつ運動」を取り入れています。

まず、児童会の委員会として「まごころ委員会」があります。廊下を走らない、時間を守るなどのマナーに加えて、あいさつの励行を進めることが役割です。

次は、「あいさつビンゴ運動」です。毎日いろいろな課題が5つ書かれた用紙を配布し、5つともできれば〇がそろってビンゴとなります。ゲーム性を持たせて、興味を引く施策です。それから、キャッチフレーズの設



あいさつビンゴ

定です。例えば「あめげじ」。なんだと思いますか？ 実は「あいさつはめをみてげんきにじぶんから」という標語を縮めたものです。

「短い方がなじみやすいし、使いやすいんですよ。『今日はあめげじできた？』みたいな会話の中でも使っています。このキャッチフレーズは学期ごとに設定され、運動の活性化に役立てられています。

施策の効果が出て、昨年度前期の学校評価で「進んであいさつができた」と回答する児童は、92・1%と高い数値でした。ただ、保護者に尋ねると64・4%。この隔たりは例年



手書きメッセージを手に元気な声であいさつ運動



あいさつセブンの達成率発表

「あいさつに限らず学校と家庭が情報共有をして、一緒に子どもを見守り、育てていくことが大切だと思います」と、水間校長。鳥羽小学校の場合は、それに加えて地域のバックアップも強みです。定期的に、地域の民生委員や「見守り隊」、保護者があいさつ運動に参加しています。こうした地域の方との交流も、「社会の一員としての資質を育てる」ためには有効でしょう。福井県が学力でも体力でも全国トップクラスであるのは、こうした環境に支えられているからなのかもしれません。

「小さな親切」はあいさつから！ 県内に広がるあいさつ運動

福井県本部では、毎年「あいさつ運動推進協力校」を指定し、家庭や学校でのあいさつ運動の推進を図っています。市町村支部のない地域は県本部が直接指定し、あいさつ運動を推進してもらうと共に、「小さな親切」運動を知ってもらうきっかけになっています。

■28年度あいさつ運動推進協力校



あいさつ運動推進協力校依頼証

データに見る福井県の子どもの実力

■全国学力テスト

各教科の平均正答率上位3県（公立校）

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
小学生	①秋田	①秋田	①秋田	①秋田	①富山
	②青森	②石川	②石川	②石川	②福井
	③石川	③福井	③福井	③福井	③秋田
中学生	①秋田	①秋田	①福井	①福井	①福井
	②福井	②福井	②秋田	②秋田	②秋田
	③富山	③石川	③石川	③石川	③富山

2015年

■全国体カテスト点数上位3県

（公立校）

小学生（5年）	男子	女子
	①福井	①福井
	②茨城	②茨城
	③新潟	③新潟
中学生（2年）	男子	女子
	①福井	①福井
	②茨城	②茨城
	③新潟	③埼玉

2015年